

Model Graphix

# ガンダム アーカイブス

『ガンダム40周年 RX-78-2 ガンダム』編

モデルグラフィックス編

大日本絵画



Model Graphix  
**ガンダム アーカイヴス**

『ガンプラ40周年 RX-78-2 ガンダム』編

月刊モデルグラフィックス編

大日本絵画



# Model Graphix

# ガンダム アーカイブス

## 『ガンプラ40周年 RX-78-2 ガンダム』編

### 月刊モデルグラフィックス編

模型専門雑誌『月刊モデルグラフィックス』には'85年の創刊当初より数々のガンプラ作例やスクラッチビルド作例が掲載され続けていますが、本シリーズはその膨大な作例群のなかからテーマを絞ってピックアップしまとめたものです。今回は、ガンプラ40周年を記念してRX-78-2ガンダムの作例を一挙掲載。PG UNLEASHEDなど、40周年を期に製品化されたものはもとより、過去に発売されたキットも盛り沢山でお贈りいたします。



\*本書では基本的に雑誌掲載当時の記事表記に準じるようにしています。そのため、「本誌」=「月刊モデルグラフィックス」、「MG」=マスターグレード、「PG」=パーフェクトグレード、「センチネル」=ガンダムセンチネルの略となっています。また、記事中にあるマテリアルやキットに関する表記は掲載当時のものになっているため、現在は販売が停止されていたり名称が変更になっていたりと価格が改訂されていたりする場合がありますのでご了承ください（バンダイ ホビー事業部は'18年4月よりBANDAI SPIRITS ホビー事業部へと改編されています）  
©創通・サンライズ

## Contents;

<b>PG UNLEASHED RX-78-2 ガンダム</b> (BANDAI SPIRITS 1/60 パーフェクトグレード) 製作/堀越智弘 .....	12
<b>PG UNLEASHED RX-78-2 ガンダム</b> (BANDAI SPIRITS 1/60 パーフェクトグレード) 製作/リョータ .....	48
<b>EG RX-78-02 ガンダム</b> (BANDAI SPIRITS 1/144 エントリーグレード) 製作/リョータ .....	64
<b>HG RX-78-02 ガンダム (THE ORIGIN版)</b> (BANDAI SPIRITS 1/144 HG) 製作/堀越智弘 .....	70
<b>HG RX-78-02 ガンダム [BEYOND GLOBAL]</b> (BANDAI SPIRITS 1/144 HGUC) 製作/堀越智弘 .....	76
<b>HG ガンダム G40 (Industrial Design ver.)</b> (BANDAI SPIRITS 1/144 HG) 製作/堀越智弘 .....	82
<b>HGUC RX-78-02 ガンダム No.021</b> (BANDAI SPIRITS 1/144 HGUC) 製作/TA2-YA .....	88
<b>HGUC RX-78-02 ガンダム No.191</b> (BANDAI SPIRITS 1/144 HGUC) 製作/アーリーチョップ .....	92
<b>HG RX-78-2 ガンダムVer.G30th</b> (BANDAI SPIRITS 1/144 HG) 製作/学屋 .....	98



PG UNLEASHED  
1/60  
RX-78-2 GUNDAM





# 新 たなる 究極 の RX-78-2 を作る。

(巻頭特集)

'80年の記念すべきガンブラ第一作1/144 RX-78 ガンダム発売から40年。'19年末から'20年末の40thアニバーサリーな1年間には、ガンブラ史に残るとんでもないRX-78の製品化ラッシュが到来した。'19年末のHG G40 (Industrial Design Ver.) にはじまり、1年間に7つものRX-78のガンブラが世に送り出されたのだ。

工業デザイン的な方法論で原典のRX-78-2を再構築したHG ガンダムG40、MGを1/144にそのまま落とし込んだかのような密度の濃いギミックとディテールを身に纏ったHG ガンダム (GUNDAM THE ORIGIN版)、可動に極振りすることでむしろ原典のガンダムの魅力を再確認させてくれたHG ガンダム[BEYOND GLOBAL]、初心者向けキットの概念を覆すエントリーグレード第一作となったEG ガンダム、新たな動く1/1ガンダムをモチーフとしたRX-78F00。それぞれにコンセプトで異なるデザインアレンジを身に纏うガンブラばかりで、その時点でガンブラファンはうれしい悲鳴を上げることとなった。そして、そんなアニバーサリー製品化ラッシュの大トリとしてとどめを刺したのが、このPG UNLEASHED (以下PGU) RX-78-2 ガンダムだ。フルハッチオープンギミックの搭載、多彩な質感表現と細密ディテールで魅せる内部構造、極めて自然なポーズをとることができ同時に高い保持力をも実現した可動ギミック、そして新機軸の驚くべき組みやすさ。「PGを超える新たな“完璧”なRX-78-2」を具現化したPGU ガンダムは、40年というガンブラの長く深い歴史を真っ正面から受け止めて新たな地平へと押し上げるものだった。本特集ではそんなPGU ガンダムについてできるかぎり掘り下げて解説していきたい。

# PG UNLEASHED RX-78-2 GUNDAM

ガンブラ40周年製品化ラッシュの大トリ  
40年目にして新たな扉を開いた  
ガンブラ最高峰にして究極のRX-78-2



●初代PG ガンダムが発売された'90年代末ごろから、ガンブラ、あるいはガンダムの立体物シーンは急速に多様化を進めていった。積み上げられる「ガンダム」アニメ作品、ガンブラ、ゲームなどのコンテンツは新たなファン層を呼び込み、それは同時にRX-78-2像の拡散を生んだ。40thアニバーサリーに次々と製品化されていったHG G40からRX-78F00までの多彩な

ガンダムはそういった多様化に対する回答だったようにも見える。そしてそのいっぽうで、多様化し拡散したRX-78のイメージを、改めていかにひとつにまとめ上げることで新たな地平へと昇華した、そのような印象を受けるのがPGU ガンダムだ。なんにせよ、ガンブラ40thアニバーサリーは、後世のファンに語り継がれるであろう特異点のような一年間であった







1200

2020

●初代PG ガンダムが発売されたのは98年。当初「究極のガンブラ」を謳ってシリーズスタートしたマスターグレードのアイテム数が10を超えスタンダード化の兆しが見えたところ、それを超える「完璧」を目指して開発されたものだった。

## 初代PG

●ガンブラ史上に輝く傑作中の傑作、初代PG ガンダム。初代PG ガンダムは「120点のガンダム」などと賞されたが、これは「満点=100を超えるもの」と言う意味の褒め言葉で、当時のガンダム系モデラーに大きな衝撃を与え、その後も初代PGライクなガンダムのガンブラがいくつも生み出されていった。MGくらいまで細身で原典とは異なる方向にアレンジを進めていったガンダム立体物シーンに、「ガンダムはやっぱり太くあってほしい」というテーマをつきつけ、同時にオモチャ然としたそれまでのプラモデルのイメージから完全に脱却した形状デザインをもたらした。また、インサート成型の半完成フレーム構造、全指可動ハンドパーツ、完全変形コア・ファイターの内蔵など技術的な進化も著しかった

## PG UNLEASHED

●ガンブラ40周年を機に初代PG ガンダムからおよそ20年を経て新たなガンブラのフラッグシップとして生み出されたPGU ガンダム。一新されたデザインアレンジ、全身のハッチ開閉ギミック、フレームの多彩な質感表現、新機軸の組み立て工程など、さまざまな要素がこれでもかとばかり詰め込まれており、極めて高い完成度でまとめられている





初代PG



MG Ver.3.0



SENTINEL 0079

▲「SENTINEL 0079」ガンダムからMG Ver.3.0（と1/1立像）にいたるくらいまでは、「新たな外観アレンジとリアル」の提示という指向が強かった。初代PGガンダムはそのような指向のまっただなかで生み出された



PGU

▶新たなアレンジとなりディテールは増えデザイン的なチャレンジもされているPGUだが、あくまで原典のイメージの範疇内に踏み留まっている。そこは、初代PGガンダムから踏襲されたRX-78-2のガンブラのフラッグシップたる矜持なのではないだろうか

# "UNLEASHED" = 「解き放たれた」 その意味するところとはなんだったのか。

“120点のガンブラ”から“100点満点”のガンブラへ  
組んでわかったPGUガンダムのスゴさを語る。

ガンブラ40年の歴史を背負い、約20年越しにPGを超える新たな「完璧なガンダム」として生み出されたPGUガンダム。“UNLEASHED” = 「解き放たれた」と銘打たれたこのRX-78-2のガンブラは、果たして何からどのように解放されたのか？ まずはモデラー的視点で深めに考察してみたい。

▶少しずつ進化を遂げてきたガンブラのガンダムの内部構造。それはRX-78-2の外装形状やコア・ブロック内蔵という縛りをいかに克服するかというチャレンジの歴史だった



▼ガンブラ40周年でたくさんのガンダムが製品化されたがコンセプトはさまざま。HG G40（右）やRX-78F00（左）は、工業製品や実物のリアリティをスタート地点として、斬新な外観アレンジであらたな地平に踏み込んだ前衛的なものとなっていた



初代1/144

◀基本的なイメージは原典のRX-78-2を踏襲しつつ、フレーム構造や可動などガンブラとしてのギミックを追求していたのが、HG THE ORIGIN版（右）やHG BEYOND GLOBAL（左）。ガンブラ40周年のガンダムではさまざまなアイデアが具現化されたが、PGUはその集大成的な存在でもある

’98年に発売された傑作、初代PG ガンダムは「120点のガンダム模型」と絶賛された。満点をを超える120点。それまでガンダムのプラモデルは足りないところや原典とイメージが異なるところをモデラーが補うというのが常識だったが、この初代PG ガンダムはモデラーの創造力を上回る立体を提示した。ガンブラ的シンギュラリティーとでもいうべき革命的な事件で、その後ガンダムの立体シーンでは初代PG ガンダムのイメージが基準点であり続けたし、20年経ついまでも初代PG ガンダムの魅力は衰えない。そんな初代 PGガンダムがあるところにそれをを超える新しいPG ガンダムを創出するというハードなチャレンジ、それが“PG UNLEASHED”（以下PGU）だ。

実際にPGU ガンダムを組んでまず感じたのは、「恐るべきそつなさ」だった。「そつがない」というとよくないニュアンスで受け取られるかもしれないが、RX-78-2の可動する立体を目立って残念なところがないようにまとめ上げるのは至難のワザであり、最高の褒め言葉と受け取ってほしい。「コア・ブロックを内蔵したときの腹部可動問題」「デザイン上可動が制約される腰周辺問題」「大きく曲げたときの関節フレーム露出問題」「武器両手持ち問題」「シールドや武器の取り付け穴露出問題」「ラストシューティング再現における肩アーマー位置問題」「足首アーマー周辺の隙間問題」「フルハッチオープン再現問題」「外観のアレンジをどこまで許容するか問題」……RX-78-2を立体化するときこれまで問題とされてきたポイントを挙げていくと枚挙にいとまがない。さらに1/60のPGならではの問題として、「大きく重くなるパーツの保持力問題」「フラッグシップたるスゴさをどうするか問題」、そしてそれと相反する「スゴいキットにすればするほどパーツが増えて組みにくくなる問題」も難問だ。かようにRX-78-2の立体化は奥が深く難しいものなのである。

初代PG ガンダムは、革新的なイメージの提示であったいっぽうで諸問題のすべてに答えてはなかった。そこにまだモデラーの手が入る余地があったわけなのだけれど、PGU ガンダムでは明確な意思をもって諸問題にきちんと答えを出してきている。それが「恐るべきそつなさ」の意味するところだ。膨大なパーツ数のキットが驚く間もないほどにさくっと組めて、できあがってみるとRX-78-2としてあってほしいギミックで全身が埋め尽くされている。初心者でもひっきりなくあっさり組める。そのいっぽうでベテランモデラーは、提示されたRX-78-2の諸問題の解決策ひとつひとつに感心させられる。そんなRX-78-2のガンブラはありそうでなかったし、実現できたことは相当にスゴいと思う。「超一流のホテルは、サービスの存在を感じさせないように上質のもてなしを提供する」なんて言われることがあるが、まさにそんなカンジだ。

“UNLEASHED”とは「解き放たれる」という意味だが、PGUに関しては「過去を捨て去り自由に創った」ということではないように思う。RX-78-2のガンブラの歴史を尊重し驚くほど真摯に向き合った結果到達した新たな地平、それがPGU ガンダムなのではないか。開発者やメーカーの意図はまた違うところがあるのかもしれないが、いちモデラーとしては「ついに積年のRX-78-2諸問題について改造工作しなくて済むようになった」という意味での、すがすがしい「解放」感が新鮮だった。いっぽう同時に、残念なところに手を入れることにこそモデラー的モチベーションが発揮されたりするので複雑な気分も沸いてくるのだが……それはまた別の話である。（文/森慎二）



BANDAI SPIRITS 1/60

# PG UNLEASHED

RX-78-2 ガンダム

"パーフェクト"の名を冠すからこその  
緻細緻密にして圧倒的な作り込み  
PGUガンダム設計の妙を紹介

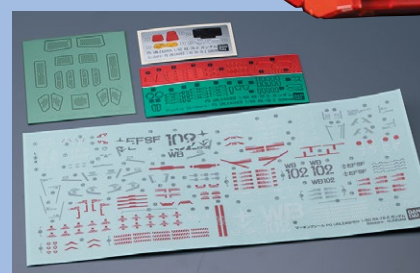
ディテール、質感、ギミック、組み立てやすさ、そのすべての面でガンプラの新フラッグシップモデルたる作り込みがされているPG UNLEASHED RX-78-2ガンダム。そのスゴさについて説明すべきところがたくさんありすぎるので……まずここではポイントをダイジェストで紹介。ダイジェストでもかなり大盛りだぞ！

PG UNLEASHED  
RX-78-2 ガンダム  
BANDAI SPIRITS 1/60  
インジェクションプラスチックキット  
発売中 税込2万7500円  
出典／『機動戦士ガンダム』



新しいけれど新しすぎない  
RX-78-2らしさの塩梅が絶妙

◀初代PGと比べるとスマートな印象になったが、PGならではの太さとメリハリ感は健在。全身にディテールが追加され形状にもアレンジが加わっているが、RX-78-2らしさを逸脱しない塩梅が絶妙。「これぞガンダム」といった趣を楽しめる



## 豪華なシール類が付属

マーキングシール、ネーミングシール（通常のガンプラに付属するホイルシール）、メタリック3Dシール、エッチングシールが付属。メタリック3Dシールは厚みがあり光をあてると反射して光る。エッチングシールはゲートレスなので、剥がして貼るだけで金属質感にできる。これらをすべて貼れば塗らなくても左写真のように仕上げることができる

\*ここではパーツの状態をわかりやすくするために、一部を除いてシール類を貼らずにパチ組みしています



はじめにいろいろなニュースや記事を見て「PGUは形状もギミックもスゴイレベルで追い込まれている」と驚いた。しかし、今回の特集にあたり実際にキットを組み立てる機会を得てもっとも新しいと驚いたのは、じつはその形状でもギミックでもなかった。もっとも、UNLEASHEDが新次元であることを実感させられたのは、その「組みやすさ」だった。

ガンブラの「組みやすさ」とは、パーツ分割や合いのよさを指しているが、PGUの「組みやすさ」はそういうことではない。もちろん分割や合いもよいのだが、ずばり、ランナー／パーツが探しやすいためである。しかも圧倒的に、大型MGやPGのレベルになるとランナー数は20を優に超える。実際PGUもランナーからはじまりアルファベット順にランナーまである。これまでも製作時間の多くを「L、Lのランナーはどこだ」と探す時間に費やしていたのだが、PGUではそうはならない。

ポイントのひとつは、工程ごとに使うパーツができるだけひとつのランナー枠に収まるように配置が工夫されているところ。ランナーをまたがないようになっているので、ランナーが探しやすく、ひとつの工程が終わってパーツがすべてなくなったランナーはその段階で捨ててしまふことができるのだ。そして、ポイントのふたつめはランナーを部分的に手でもぎれるようになっていて、ランナーを切り出し終えたところを部分的に捨てていくこともできるのだ。完全に工程ごとにランナー分けするとランナー数が増えてしまうのである程度まとめることで総ランナー数は抑えつつ、部分的に捨てていけるという工夫だ。このようにどんなに不要になったランナーを捨てていけるので、作業が進むにしたがってランナーが減り、どんどんパーツが探しやすくなっていくという寸法だ。

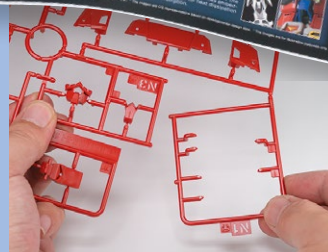
この新次元の「組みやすさ」言葉にすれば単純な仕掛けのようだが実現するにはかなり精妙に計算されたパーツ配置が必要だ。設計陣の苦労が偲ばれるところである。

## ランナーがみるみる減っていく新次元の組みやすさにびっくりした！ 文／森慎二

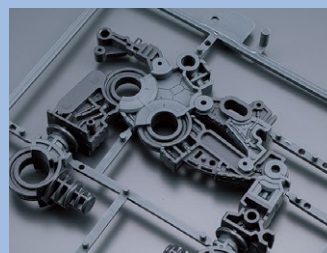


### もぎって捨てられる！

▶最新のガンブラが「組みやすい」のはあたりまえだが、PG UNLEASHEDではさらに一段飛躍。ランナー内のパーツが工程ごとにまとめられていてランナーを部分的にもぎれるので、工程ごとにパーツがなくなったランナーをどんどん捨てていくことができる。使うパーツがまとまっているうえに作れば作るほどランナーが減っていくので、製作中にランナーを探す手間が格段に減り、それが組みやすさを生んでいる



◀基礎フレームはガンブラ史上最大級のインサート成型フレーム「モビルスーツフレーム（MSF）」を採用。腕、脚、腰アーモ基部は切り出してのぼすだけで基礎フレームができる。そのあとのフレーム／外装パーツを重ねていく工程に集中して楽しむことができるようになっている

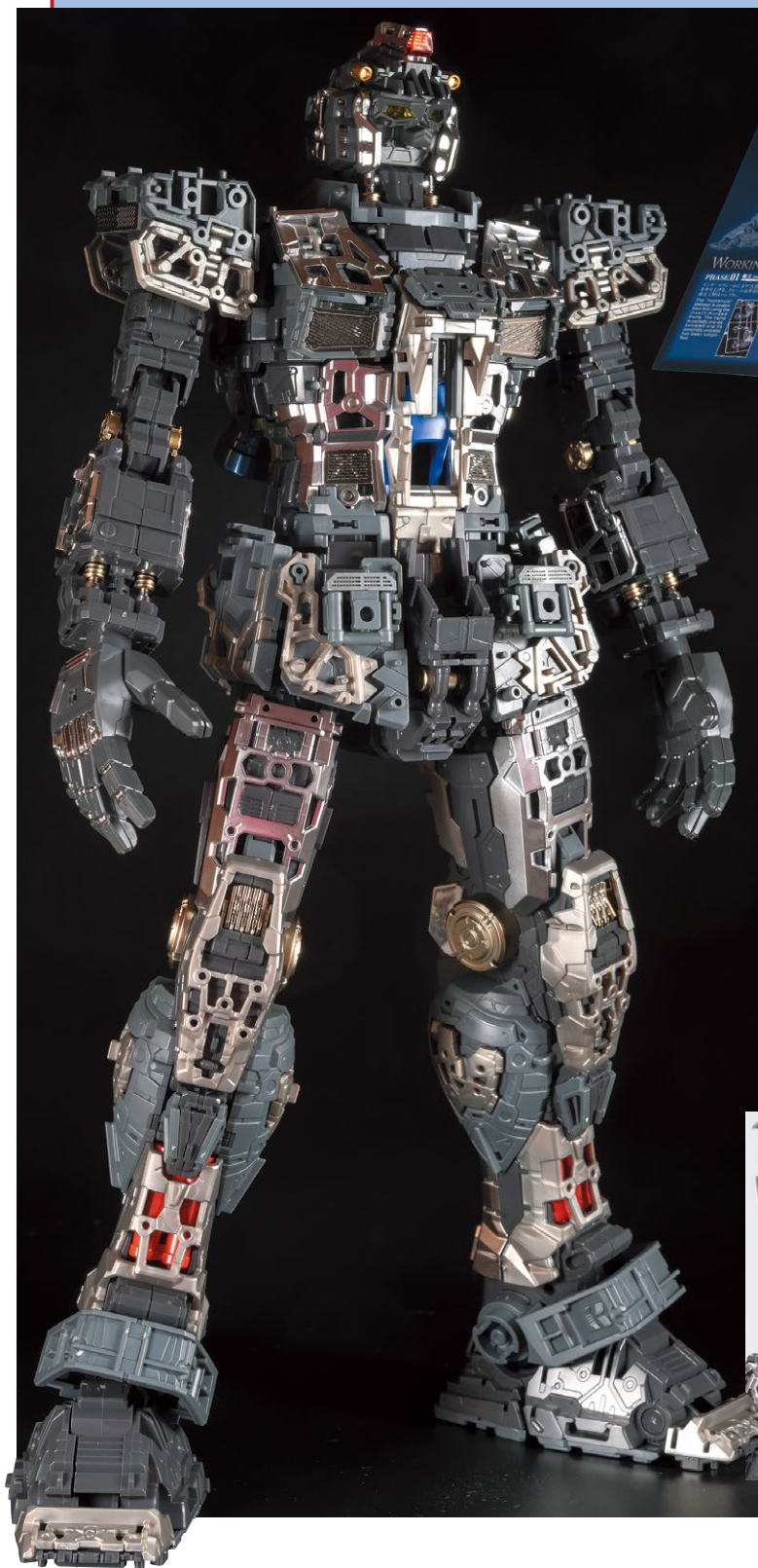
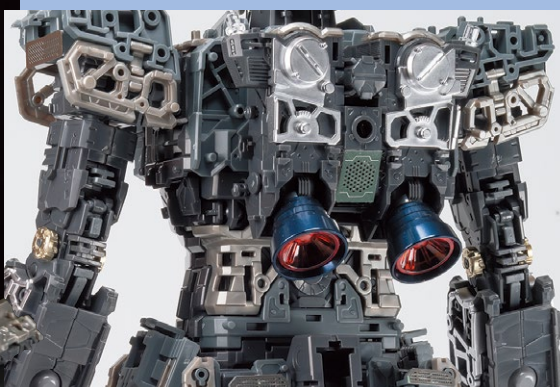


### 圧倒的に多彩な質感表現

▶プラスチック製パーツにクロームメッキ、シルバーメッキ、ツヤ消しメッキ、メタリック成型色を同時に採用することで多彩な金属質感表現を実現。これらが多層的に組み合わさることでリアリティーを演出している



▶多彩なプラスチック成型色に併せてエッチングシールや金属製スラスターパーツを採用することで、さらに質感に幅を持たせメカニック感をフースト。一般的なプラモデルの領域を超えた質感表現となった







あらかじめ電飾ユニットを同梱  
ビーム・サーベルも光る！

◀PGUには電飾のためのユニットがはじめから同梱されていて、箱のなかのものを組み立て説明書とおりに作るだけで電飾されたガンダムを楽しむことができる（ボタン電池は別売り）。光る箇所は、額のカメラ部、カメラアイ、胸部ダクト内部、ビーム・サーベル、ランドセルのスラスター（発光するビーム・サーベルパーツ装着時のみ）。カメラアイ、胸部ダクトは発光色が複数色あり、スイッチングでいろいろなパターンを楽しむことができる



▲電飾ユニットは頭部下側の胸部内に収まる構造で、そこからクリアの導光パーツを介して発光する。完成後は胸部中央のブロックがスイッチとなり、引き出して戻すことで発光させたりパターンを変えたりすることができる  
▶ビーム・サーベルはかなり明るく発光し雰囲気盛り上げてくれる



軸部を動かすのではなく  
ブロック自体を伸ばす  
新たな関節構造

▶股間ブロック全体を伸ばすようにしたこと股間軸位置が前後に移動しない。そのため大きく脚を上げるポーズをとっても脚のつけ根のあたりが不自然に見えなくなった。股間ブロックの可動幅は大きくないが、この機構が見ええに与える効果はとても大きいといえよう



"パーフェクト"を体現する  
繊細緻密にして圧倒的な作り込み  
PGUガンダム設計の妙を紹介

まさに完璧。



じつは重要な腰アーモアの可動。この構造はリアルかも！

▲腰アーモア基部フレームにはMSFを採用し、ダブルウィッシュボーンのような構造で前後方向にスライドさせられる。これにより太もも上部の干渉を避けたり、腰をひねって

いるように見せたりすることが可能となった。MSの弱点である股関節部の装甲なので、「被弾時の衝撃を逃がす構造」と捉えれば、兵器としてのリアリティも兼ね備えた構造だ



よく動くのはあたりまえ  
どう動かが重要なのだ

◀ヒジ/ヒザが二重関節で180度近くまで動くのはもはやあたりまえになりつつあって、問題となるのは可動の「質」だ。とくにRX-78-2は、外装デザイン的に大きく曲げるとグレーの関節が大きく露出しがち。PGUでは絶妙な可動軸位置とアウトラインを意識したスライド可動により、人型を崩さない質の高い可動を実現。原典に近いイメージを楽しめる



▲肩関節部は、2軸のせり出し機構に3軸の関節ブロックを接続する凝った構造。左右独立して引き出したり傾けたりすることができかなり自由度が高い。可動範囲も適度で大きな隙間が空くこともない

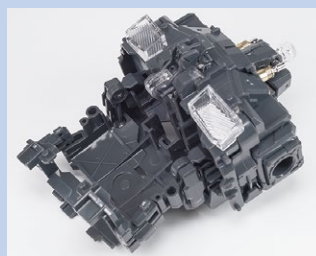
▶肩アーモアが上側にある状態で大きく腕を上げることができるのはすごい。この機構によりいわゆる「ラストシューティング」ポーズも違和感なくとることが可能

単に引き出せるだけでなく  
自由度がとて高くなった肩関節



“コア・ブロック問題”を  
見事にクリアした胴体

▶MG以上のグレードのRX-78-2ではもはや避けては通れないのが着脱できる内蔵式コア・ブロックの再現。PGUではコア・ブロックを内蔵しつつも胴を前後左右、そしてひねり方向にも可動させられるようになっている

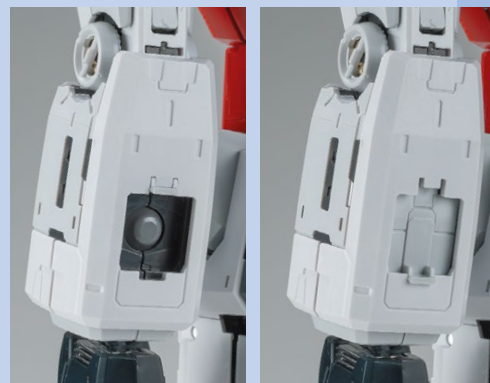




“取り付け穴問題”を徹底的に解消  
シールドは磁石埋め込み式で脱着可！



▼取り付け部はハッチ開閉式にすることで、シールドを取り付けていないときに不格好な取り付け穴が露出することもなくなった。ハッチを開けたときに見える丸いパーツは塗装済みの金属パーツで、ここにシールドマウントの磁石を合わせる構造



◀◀これまでさまざまな方式が  
試行錯誤されてきたRX-78-2  
のシールド装着法。昨今の模型  
誌作例では磁石を使った方式が  
よく使われるが、ついに製品で  
もマグネット式を採用。RX-  
78-2のシールドは1/60サイ  
ズだとかなり大きく重量も  
かさむ。マグネット式を採用す  
ることでしっかり保持できるよ  
うに配慮されているのだ

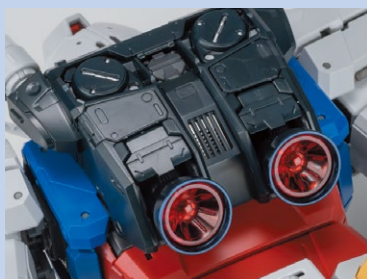
顔はガンダムの命！  
カッコよく仕上がってます

▶頭部はクセのないシャープでカッコいいフォルム。カメラアイ周辺は黒に色分けされ、フェイスは精悍な印象になっている



◀バルカン砲口は金属製挽き物パーツが同梱されている。ハメ込むだけで金属パーツならではのシャープな造形を楽しめる。また、可動するシリンダーディテールが配された首部は可動範囲が広く、大きく上を向かせることも可能

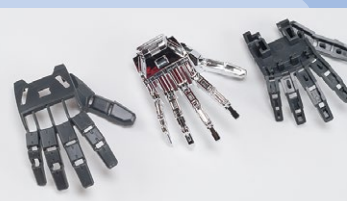
▼PGUにはシートから剥がして貼るだけのエッチングシールが付属しているが、あえて奥まったちらりと見える箇所に絞って配置されているのがニクイ演出。金属パーツならではのシャープな質感でメカ部を盛り上げている



多彩な質感で魅せる

▲メッキパーツや金属製パーツ、クリアパーツを適所に配置することで質感豊かに魅せているPGU、HGやMGではグレー1色であり見映えのしにくいランドセルも、金属パーツのスラスターやチラ見えるエッチングシールなどの採用でとても見映えがある

▶ハンドパーツは表裏とメッキパーツの三層構造に手甲を組み合わせる構造。隙間からメッキパーツが覗くようになっており、塗り分けをしなくても関節部分をリアルに見せられる



あえての固定指  
採用に拍手を  
贈りたい！

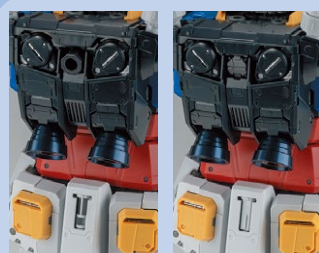
◀フォルムと実用性を優先しあえて固定指を採用したハンドパーツ。大きな武器パーツもしっかり保持でき、平手、握り手ともに良好な指の形状を楽しめる

▼コア・ブロックは、固定式でメカを再現したもの  
とコア・ファイターに変換できるものが付属。コア・  
ファイターはもちろん完全変形で、コクピットの回  
転、キャノピーの開閉、ミサイル・ランチャーの展  
開ギミック、運動可動の尾翼ギミックを備えている

ついに脚が可動して収納可能に  
完全変形コア・ファイター

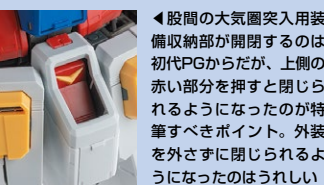


▼1/35でも再現されなかった  
着陸脚の収納展開ギミックを搭載。胴体側の脚庫は翼のつけ根  
部がスライドしハッチを兼ねる



こんなギミックにも  
磨きがかかりました

▲ランドセルと腰後面のシールド/ライフル  
取り付け部は回転式。取り付けないとき  
には穴を隠せて外観を損ねない。腰にビー  
ム・ライフルを取りつけられるのはガン  
ダムでは意外とめずらしいギミックだ



◀股間の大気圏突入用装  
備収納部が開閉するのは  
初代PGからだが、上側の  
赤い部分を押しと閉じら  
れるようになったのが特  
筆すべきポイント。外装  
を外さずに閉じられるよ  
うになったのはうれしい

ビーム・ライフルも  
見どころ満載

▼▶ビーム・ライフルのポイントは、可  
動するようになったトリガーと、位置を  
微調整できるフォアグリップ、そして自  
由に動かせる照準器。フォアグリップは  
左右方向に回転するだけでなく前後方  
向にも微妙に動くので、両手持ちのとき  
に左手をきれいに添えやすくなっている







# BANDAI SPIRITS 1/60 PG UNLEASHED RX-78-2 ガンダム "FULL HATCH OPEN"

圧倒的存在感と立体情報量  
PG UNLEASHED RX-78-2 ガンダム

圧倒的じゃないか。PGを超えるPGとして生まれた“PG UNLEASHED”、その製品の良さを活かし、ていねいな塗装仕上げで完成させたのが本作例だ。もちろんフロホーシヨンやキミツクには手を入れずその魅力をさらに引き立てるように製作している。完成したガンダムが醸し出す圧倒的立体情報量と圧倒的存在感。ガンダムが新たなスラーシに到達したことへ敬意を表したい。

PG UNLEASHED  
RX-78-2 ガンダム  
BANDAI SPIRITS 1/60  
インジェクションプラスキット  
発売中 税込2万7500円  
出典／「機動戦士ガンダム」  
製作・文／堀越智弘





# RX-78-2 GUNDAM





9784499233446

ISBN978-4-499-23344-6 C0076 ¥3900E

定価(本体3,900円+税)



1920076039003

**Model Graphix GUNDAM ARCHIVES**

"RX-78-2 GUNDAM"

© 創通・サンライズ

